

# 福井県立芦原青年の家(1/2)

芦原青年の家の愛称は「アイリー」です。  
アイリーは自然と人と人とのふれあいを大切にします。

所在地	あわら市北潟250-20		
設置年月日	昭和41年4月1日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	本館(RC2階建、延面積1,019.016㎡)、体育館(RC1階建、702㎡)、宿泊定員80名(洋室8・和室4)、研修室(2)、食堂、厨房、浴室(2)、グラウンド、キャンプ場		
職員数	職員4人 アルバイト1人 計5人		

## 利用状況等

	H15	H16	H17
利用者数(人)	15,663	12,857	12,043

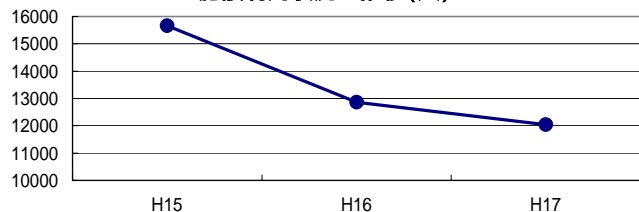
## 利用者負担(宿泊料)等

宿泊料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校生	390円
	小・中学生	270円

## 利用者負担(施設使用料)

施設使用料	使用料金	5時間未満	5~10時間	10~15時間
	小会議室	480円	900円	1500円
	研修室	680円	1500円	1800円
	体育館	900円	1900円	2500円

施設利用状況の推移(人)



## 利用状況の推移

平成16年度は、あわら市がカヌーポロ世界選手権(愛知県)のキャンプ地となり、6カ国(延べ641人)が芦原青年の家で合宿を行いました。  
平成17年度においては、団体数および実研修者数では前年度を若干上回ったものの、前年度のような大きなイベント的な利用団体がなかったため、延べ利用者数では約800人減少しました。

## 平成17年度の特徴について

活動実績	A: 自然環境を生きし、親子を対象とした事業を11回開催(うち2回は新規事業)
	B: ボランティア養成の事業を2回開催(うち1回は新規事業)
	C: 放課後の子ども居場所づくりの事業を2回開催(新規事業)
	D: 施設開放の事業を2回開催
	E: 長期宿泊体験を主体とした事業を5回開催
	F: 子どものための自然体験学校(アイリーキッズスクール)を8回開催
カヌー・いかだ漕ぎ・魚釣りなど近くの北潟湖を利用した活動が特色で、A~Fの主催事業を含め、年間に約12,000人の方に利用していただきました。	

## 主な主催事業

- A: キャンプ研修会(5月)・親子キャンプ(6月)・親子カヌー教室(9月)・自然観察会(1月)
- B: キャンプカウンセラー養成講座(6月)・中学生のつどい(2月)
- C: 小学生いきいき広場(各月3回程度)・中学生いきいき広場(各月3回程度)
- D: 桜まつり(4月)・紅葉まつり(11月)
- E: 長期宿泊体験事業(芦原会場)(7~8月に6泊7日)・各小学校合宿通学(4泊5日を4回)
- F: アイリーキッズスクール(年8回開催で各定員40名)

桜まつり



中学生のつどい



カヌー教室



親子キャンプ



# 福井県立芦原青年の家(2/2)

行政コスト計算書(平成17年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	38,644	83.1%	77.5%
	退職給与引当金繰入	7,740	16.6%	-
	計	30,904	66.5%	63.8%
物にかかるコスト	物件費	7,724	16.6%	101.0%
	維持補修費	3,045	6.5%	142.4%
	減価償却費	4,830	10.4%	100.0%
	計	15,599	33.5%	106.7%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	-
	その他	8	0.0%	100.0%
	計	8	0.0%	100.0%
合計		46,511	100.0%	73.7%

バランスシート(平成18年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	141,482	97%	固定負債	31,560	80%
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	109,922	103%
計	141,482	97%	計	141,482	97%

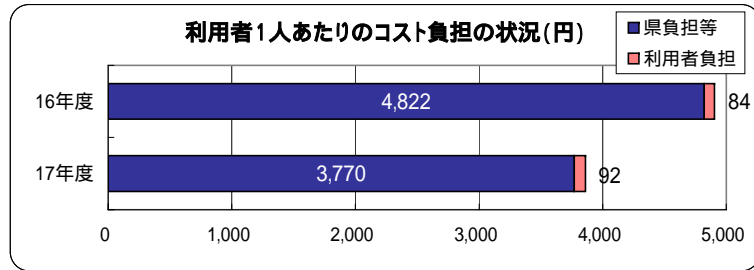


(単位 千円)

収入				(前年比)
収入	利用料等収入	1,110	2.4%	102.6%
	その他収入	107	0.2%	85.6%
	一般財源	45,294	97.4%	73.2%

(前年比)

利用料等収入計	1,110,000 円	102.6%
利用者1人あたり平均利用料	92 円	109.5%
利用者1人あたりコスト	3,862 円	78.7%



**施設の特徴**

施設が湖畔に位置するという立地特性を活かした体験活動を積極的に行っています。

児童・生徒ならびに青少年のボランティア育成の場として活用されています。

坂井地区の小・中学校や教育委員会、子ども会やカヌー協会などと連携しながら、体験活動や研修会などを実施しています。

中学生や周辺地域住民に体育館などを開放し、交流の場とすることにより、地域との共生を図っています。

**バランスシート、行政コスト計算書の特徴**

昭和41年に設置された施設のため、減価償却費が小さく、コストに占める人件費の割合が相対的に高くなっています。

教育施設として、宿泊料を低く設定しているため、コストに占める利用料金の割合は低くなっています。

**今後の事業方針 取組み内容**

年間を通じ、週末や放課後における子どもの居場所づくり事業を実施します。

放課後に小学校などに出向いて、出前講座の事業を、新たに実施します。

北潟湖や周辺の森林など、地域の自然を生かした事業を実施します。

特に、北潟湖でのカヌー体験を多く取り入れ、多くの人にカヌーを経験してもらえるように努力します。

冬季には、オープンを使ってのお菓子作り教室などの事業を新たに実施します。

これまで実施してきた、親子のふれあいを大切にする事業や子どもたちの放課後の居場所づくりに対応した内容を再検討し、より一層充実した魅力あるものにします。